

曇曜と北魏廃仏

『付法藏因縁伝』を中心に――

松 山 貞 好

【一 はじめに】 当時の華北社会（四～五世紀）は、仏圖澄・道安以来、民衆教化が大いに進み、士人階級からも多くの崇仏者を輩出し、五胡騒乱の華北を平定した北魏が仏教隆盛期を築いたが、北魏時代にはまた、中国史上最初の苛烈な廃仏が断行された。

北魏の廃仏は、廃仏論者で中国の伝統的な文教国家建設を目指す司徒崔浩が首謀者であり、「道教を清整す」（『魏書』枳老志）を志す道士寇謙之を利用して血氣盛んな若き専制君主太武帝を動かし、廃仏を断行させたというものが実相であり、その内容顛末は先学諸氏の研究により明らかにされてい⁽¹⁾て、論ずる余地は無いようである。しかしながら敢えて本稿に於いては諸先学の成果を土台にして、筆者独自の方向で曇曜と北魏廃仏の検証を試みることにする。具体的には廃仏後の北魏仏教の指導者曇曜が訳したとされる『付法藏因縁伝』の撰述の意図を中心に論じていきたい。

【二 撰述年次】 『付法藏因縁伝』は第一祖・摩訶迦

葉から始まり第二祖阿難・傍出摩田提・第三祖商那和修・第四祖憂波鞠多と続き、第二十三祖師子の法難による刑死に至る二十四祖師（傍出摩田提を含む二十四祖）の因縁譚を軸としている。

まず『付法藏因縁伝』の撰述年次を経典目録の記録によって検証してみる。『出三藏記集』巻二では、延興二年（四七二）付法藏因縁経六巻を吉迦夜と曇曜が共訳するとあり、また『歷代三寶記』（以下三寶記）巻三の帝年には、和平三年（四六二）に、付法藏伝四巻を訳したとある。そして『三寶記』巻九の吉迦夜の条には、延興二年に吉迦夜が重ねて訳したとしてい⁽²⁾る。また後世の『大唐内典録』にも同じように記録されてい⁽³⁾る。そして『開元釈教録』（以下開元録）『貞元新定釈教目録』（以下貞元録）には四巻本・六巻本の他に三巻本或いは二巻本が存在したとしている。この『開元録』『貞元録』にある二・三巻本に関しては『出三藏記集』『三寶記』には見られないものである⁽⁴⁾ので、本稿では言及しないことにする⁽⁵⁾。

一方『付法藏因縁伝』の内容を見てみると、一卷～四巻は第一祖から第四祖まで、五・六巻で残りの祖師を簡潔に記している。これは明らかに一～四巻と五～六巻は異質であり、前半の第一巻～四巻と、後半の第五～六巻は別の時期にそれぞれ撰述されたと見るべきであろう。

これらの意味するところは、和平三年の訳出時には四巻のみであり、延興二年に吉迦夜によって六巻本が訳出されたと言うことになる。

そして第六巻には曇曜の思想・仏教観をうかがい得る記述（詳しくは後述する）が多く記載される。延興二年重出の六巻本は、『三宝紀』巻九・元魏録の吉迦夜の条に於いて、吉迦夜が曇曜の為に訳出したとなっているが、実際には吉迦夜が曇曜の考えに沿って撰述したのである。もしくは曇曜が吉迦夜の助力を得る形で撰述したのではないか。或いは延興二年の訳出時に於いては、曇曜が吉迦夜の助力無しで、単独で撰述したとも推測できる。

また第六巻末尾に曇曜の仏教観・思想が反映されていると思われる記述が多く見受けられることから、曇曜が明確な意図をもって作り上げた経典、即ちインドを起源としない中国撰述の偽経であると言える。

【三 内容と分析】『付法藏因縁伝』六巻全体の分析

は別稿に譲ることにして、本稿に於いては曇曜の仏教観・思

想が反映されている巻六末尾を中心に分析していきたい。

『付法藏因縁伝』では摩訶迦葉から師子までの二十四祖師の因縁を述べ、最後に師子の法難により「是に於いて便ち絶えたり」と結んでいる。法統の断絶を記すことによって、廃仏を経験した当時の読者の危機感に訴え、興仏護法活動の推進をねらったのではないか。常に法統断絶の危機感を持って興仏護法に努めていたであろう当時の仏教者達には大いに有効であったと思われる。

彼は印度に於いて連綿と続いてきた法統（二十四祖の系譜）も師子の死により断絶したと記しながら、

又た此の法は、道の利を得んが為めに、全く因縁を分つ。是の故に復た真の善知識と名く⁽⁸⁾。

と述べ、二十四祖師の因縁の分別の肝要を説き、諸祖師の因縁を分明にすることこそ真の善知識であるとしている。善知識とは、正法を説き、人々を解脱に導く指導者のことである。しかしこの一文は、指導者のことでは無く、解脱を得る為の方法論のことを意味している。つまり曇曜にとっての解脱を得る為の手段は、歴代祖師の因縁を分明にすることなのである。

また一方に

如えば昔阿難佛に白して言く、世尊よ、善知識なる者は、道の利を得るに於いて、因縁を半ばに作すものなりや。佛言く、しかざ

るなり。善知識なる者は、即ち是れ道を得るには、全く因縁を分つものなりと。⁽⁹⁾

と述べている。この一文は、前に示した解脱への方法論としての善知識ではなく、善知識本来の意味である解脱に導く指導者のことを指している。つまり善知識即ち指導者は、(仏)道を得る為に(正法を説き、人々を解脱に導く為に)、すべての二十四祖師の因縁を分明にしなければならないとしている。

『付法藏因縁伝』に於いて、善知識には二つの意味がある。即ち善知識本来の意味である人々を解脱に導く指導者と、解脱への方法論としての善知識である。この二つの善知識を提示することによって、二十四祖師の法統を分明にすることと、二十四祖師の法統を分明にしなければならないという指導者の自覚の重要性を主張しているのである。

曇曜は、法統を整理し明らかにして、指導者が法統明確化の自覚を堅持していれば、苛烈な迫害に遭い破滅したとしても、仏法を護り伝えていくことができる考えたのである。

また次に

阿難當に知るべし。此の閻浮提にては大迦葉・舍利弗等を除き、其餘の衆生は、若し我に遇わざれば、恒に當に流転して、解脱の期無かるべし。是の故に我れは言わん、善知識なる者は、大いなる利益を能くするものなり。⁽¹⁰⁾

と述べている。閻浮提(娑婆世界)に於いて大迦葉・舍利弗

などの釈迦から直接に法を授かった者以外は、常に生死輪廻を繰り返し、解脱する時期は無いとしている。この一文は、廃仏のような迫害を受けて、法を授かる機会が無くなった状態と重ねているのであろう。

そして諸祖師の法の系譜を明らかにしておけば、仏法を見聞きする機会を失った時代にあっても、仏法の灯を次代に継承することができ、人々は素晴らしい功德が得ることができると示しているのである。

【四 小結】 過酷な乱世の中で廃仏を経験し、また権

力者が生殺与奪を握る中国社会にあつて、曇曜はおそらく法の断絶という恐怖を常に抱いていたであろう。それは後世の仏教者間に台頭する「末法思想」に似たものであったのではなからうか。乱世・法難と続く社会に身を置き、常に法統断絶の危機に立たされていると意識して興仏護法に努めていたであろう曇曜が、「末法思想」に似た考えを持っていたとしてもなんら不思議はない。

曇曜が最も重視したものは法を護り次代に伝えていくことであつた。曇曜が『付法藏因縁伝』に於いて二十四祖師の因縁を記述し分明とした意図もここにこそある。

1 北魏廃仏の研究は、塚本善隆氏の「北魏太武帝の廃佛毀釈」「北魏沙門統曇曜とその時代」(『塚本善隆著作集』二卷所収)「太

曇曜と北魏廢仏(松山)

一三六

武帝毀法」[曇曜復興仏教]([『湯用彤全集』二卷所収)佐藤智水氏の「雲岡仏教の性格」([『北魏仏教史論考』所収)川本芳昭氏の「景穆太子と崔浩」北魏太武帝による廢仏前後の政局をめぐって)、『魏晉南北朝時代の民族問題』所収)等の研究ではほぼ完成されており、筆者も参考にした。

- 2 『出三藏記集』卷二・延興二年(四七二)の条
雜寶藏經十三卷(闕) 付法藏因緣經六卷(闕) 方便心論二卷(闕)

右三部、凡二十一卷。宋明帝時、西域三藏吉迦夜、於北国以偽延興二年、共僧正積曇曜訳出。劉孝標筆受。此三經並未至京都(TT55p13b)

- 3 『歷代三寶記』卷三・帝年下の和平三年の条
昭玄沙門曇曜、欣三寶再興、遂於北臺石窟寺、躬訳淨度三昧經一卷、付法藏傳四卷。流通像法也。(TT49p43)
- 4 『歷代三寶記』卷九・元魏錄・吉迦夜の条 雜寶藏經十三卷
付法藏因緣傳六卷(或四卷。因緣廣異。曜自出者)
宋明帝世、西域沙門吉迦夜、魏言何事、延興二年、為沙門統積曇曜於北臺重訳。劉孝標筆受。見道慧宋齊錄。(TT49p85b)

- 5 『大唐内典録』卷七・賢聖集傳
付法藏傳(六卷或四卷七十五紙)(TT55p301b25)
- 6 『開元釈教録』卷十三・梵本翻訳集傳
付法藏因緣傳六卷(或無因緣字。或四卷、或三卷)(TT55p622b)

『開元釈教録』卷二十・賢聖集
付法藏因緣傳六卷(或無因緣字。亦云、付法藏經。或二卷、或四卷)八十二紙(TT55p696b)

『貞元新定釈教目録』卷三十二・梵本翻訳集傳
付法藏因緣傳六卷(或無因緣字。或四卷二卷。)元魏西域三藏

吉迦夜、共曇曜訳。第三訳(三訳二闕)(TT55p955c27)
右記にあるように『開元録』卷十三には六卷・四卷本の他に三卷本があったとあり、同書卷二十には六卷・四卷本の他に二卷本があったとある。また『貞元録』には六卷・四卷・二卷本の三訳が存在して、その内二訳が失われたとしている。

- 7 『付法藏因緣傳』卷六・師子尊者の条
於闐賓国、毀壞塔寺、殺害衆僧。即以利劍、用斬師子、頂中無血、唯乳流出。相付法人於是便絶。(TT50p321a)
- 8 『付法藏因緣傳』卷六
又此法者、為得道利、全分因緣。是故復名真善知識。(TT50p322a)
- 9 『付法藏因緣傳』卷六
如昔阿難白佛言。世尊、善知識者、於得道利、作半因緣。佛言、不也。善知識者、即是得道、全分因緣。(TT50p322a)
- 10 『付法藏因緣傳』卷六
阿難當知。此閻浮提、除大迦葉舍利弗等、其餘眾生、若不遇我、恒當流伝、無解脫期。是故我言、善知識者、能大利益。(TT50p322a)

〈キーワード〉 中国北部(華北)、北魏、中国仏教、曇曜、付法藏因緣傳、廢仏

(大谷大学大学院)